NIBUN

社会科のめざすもの

平成23年度用
新版『小学社会』教科書特集号

2010
Vol. 3

Contents

2 **新版『小学社会』を紹介します**
- 基本方針
- 『小学社会』の基本的な考え方
- 新版『小学社会』五つの質問に答えます

10 **新版『小学社会』はこう使う**
- 言語活動を取り入れた社会科学習指導のあり方
- 47都道府県を調べることから
- 情報化社会に生きる子どもを育てる
- 「狩猟・採集の生活」を扱う単元の指導法
- 身近に政治をとらえる

22 **『中学社会』 現場から！ 新教育課程への助走**
- かかわりから学ぶ地理
- 新しい歴史学習の基本スタイル
- 「対立と合意」「効率と公正」

大阪書籍 「小学書写」「小学社会」「小学算数」 から

版権譲渡を受けた教科書については，
著作者，内容に関する基本的な考え方には変更なく，
今後も発行を継続して参ります。116 日文

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

平成23年度用新版

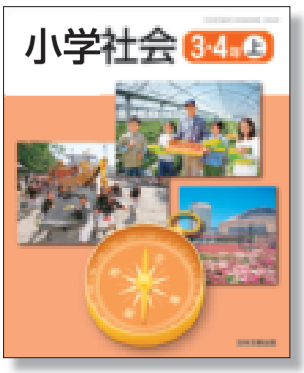
『小学社会』を紹介します

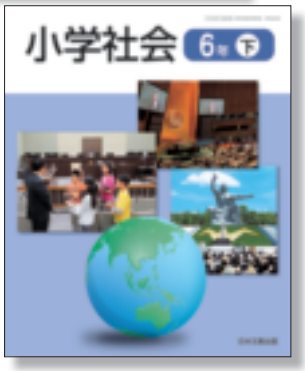
基本方針

1 よりよい社会をめざして，
人や社会と関わり行動する子どもを育てる

2 社会科としての基礎・基本を習得させ，
自ら考え，表現する力を育てる

3 問題解決学習の展開の道筋を明らかにし，
子ども一人一人の主体的な追究を支援する





『小学社会』の基本的な考え方

滋賀大学名誉教授　（びわこ成蹊スポーツ大学教授）　清水　毅四郎

「全国学力・学習状況調査」の結果にかかわって，「知識・技能が定着しているからといって，それらを活用する力が身についているとは限らない」という評価があります。思考力･判断力･表現力等の「活用」力の育成は現行学習指導要領でも重視され，実社会でも必要とされる力であることから，授業実践上の課題克服の必要性を指摘したものだと言えるでしょう。また，子どもたちの間で，学習意欲やねばり強く課題に取り組む態度に個人差が拡大しているという懸念が話題にされてきていることとも関連しています。

このような現状を見る時，今や学校教育においては，「ゆとり」か「詰め込み」かの二項対立を越え，基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用する思考力・判断力・表現力等の育成を，両輪として関連させ伸ばしていくことが求められていると言えます。

しかしながら近年の小学校社会科をめぐっては，社会科教師の社会科授業実践研究への関心の低さや，社会科授業の「目標，内容，教材，方法」の有機的関連性を図ることの難しさという問題もあります。その結果，社会科授業が，子どもたちに対し一方的固定的解釈（理解）を強いる解説におちいりがちとなり，彼らにとっては，ますます社会科授業への関心や期待を持てなくなっているという現状があるのではないでしょうか。

21 世紀の社会科がめざす「子どもたちの思考力・判断力・表現力」は，授業において，どう統一的に実現していくべきでしょうか。また，教師が強いる解説ではなく，子どもたちが学習したいと考える問題を，教師はどのように組織したらよいのでしょうか。

『小学社会』は，発刊以来，一貫して大切に掲げてきた「人間尊重」の理念を基本に，社会の諸問題を自分自身との関わりで主体的に考え，取り組んでいこうとする子どもたちの追究姿勢を重視し，支援してきました。その基本的理念は今も引き継がれています。来年度からお使いいただく新しい『小学社会』では，特に次の諸点に意を用いて改訂をおこなっています。

①問題解決学習の展開の道筋をいっそう明らかにする。
②思考力や判断力，表現力の育成を図る。
③基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。
④一人一人の興味･関心に応え，「個に応じた指導」を支援する。
⑤わかりやすく，使いやすい教科書をつくる。

わたしたちは，子どもたちが今日的な問題を地域から世界へ，過去・現在から未来へと目を向け，共同してビジョンを追究しつつ，他との関わりを意識して自分自身を見直す，そうした社会科授業展開に示唆を与え，活用していただけるような教科書をめざしたいと強く願うものです。「生きる力」は，このような社会科教育実践のもとにおいてこそ育まれると考えるからです。